

## 雇用創出型テレワークの進捗状況

### 1 住民ワーカーの状況 (R2.1)

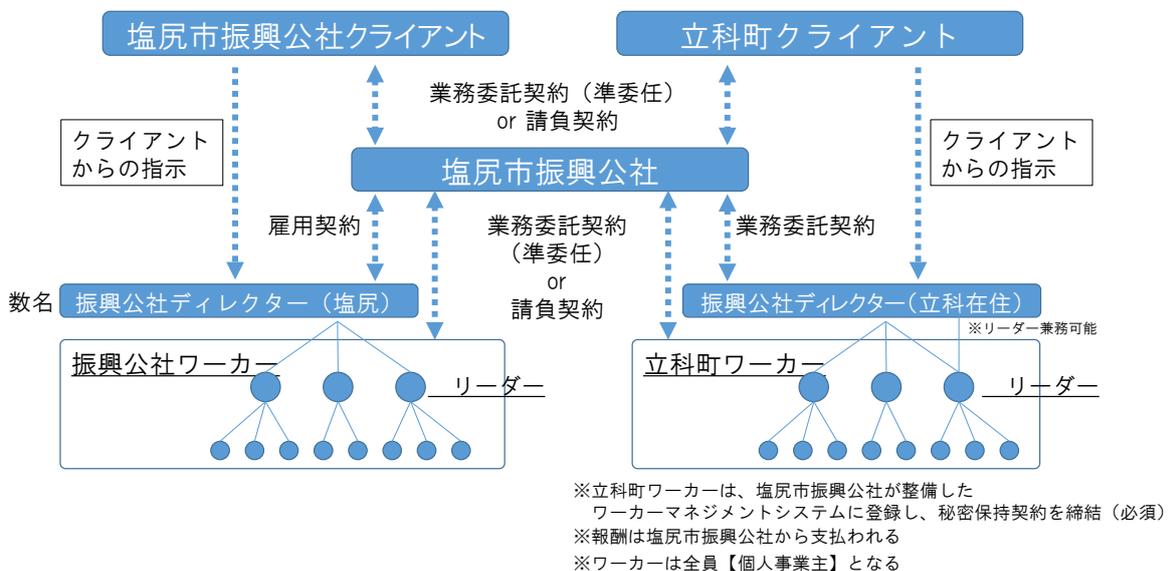
ワーカーの数	<b>48名 (延べ51名)</b>
性別	女性：42名 男性6名
年代	20代：1名 30代：18名 40代：16名 50代：7名 60代：5名 70代：1名
属性	子育て世代の他、障がい者・ひきこもりが数名

### 2 これまでの業務受注実績 (R1年度)

受注金額 (契約額)	
平成30年度	958千円
令和元年度	3,140千円 (上半期実績) 6,500千円 (年間予測)
主な受注先	町企画課・総務課、立科町社会福祉協議会、塩尻市振興公社 町内事業者 (事業者、農家、りんご出荷共同組合 等) 県内事業者 (〇〇電機株式会社 (上田市)、〇〇情報通信設備会社 (長野市) 等)
主な業務内容	議事録の作成：音声データから文章起こし 記事ライティング：取材、写真撮影、記事執筆 ウェブページの作成：WIX、Wordpressを使い、事業者・町事業のページ作成 Excelへのデータ入力：名刺、会員名簿、顧客リスト、アンケート調査入力、DM発送先リスト作成等 編集とデザイン作成：チラシ・ポスター・広報誌等 郵便物の発送：宛名作成、発送物の印刷、折込、封入等 A I教師データ入力：アノテーション (画像・動画に写っている内容を入力) 営業支援：営業資料作成、資料発送、電話営業 (アウトバウンド) 等
委託契約額 (参考)	基本的な額：住民ワーカーの時給850円 (税別) に管理費 (20~30%前後) を加えた額 × 予定作業時間 ※作業単価契約も可：例 入力項目1件〇〇円 等

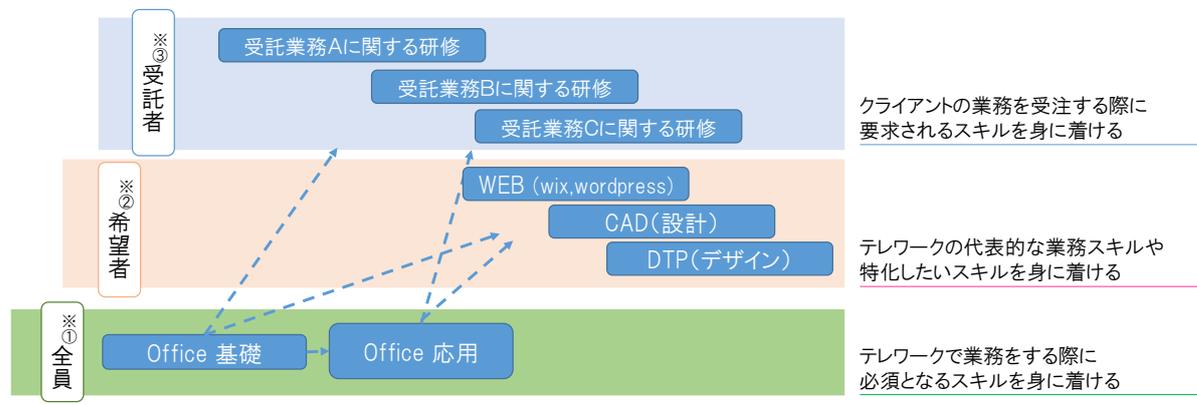
※他に、住民ワーカーが、本事業をきっかけとして独自に業務を受注している案件が複数ある。

### 3 受注スキーム



## 4 研修

### (1) 研修スキーム



※①ワーカーへのヒアリングの結果、十分にスキルがあると判断される場合には、Office基礎又は応用の研修を受講しない場合もある。

※②希望者に対する研修内容は、OJT(On the Job Training)で実施される場合もある。(上の研修内容は一例です。)

※③住民ワーカーは、自分の希望に応じて受託業務に参加でき、参加意向により、研修が案内される。  
研修内容やカリキュラムはクライアントと調整したうえで設定される。

### (2) 今年度後期の研修内容

#### 令和元年（2019年度）後期 立科町テレワーカー研修一覧

	月曜日	火曜日	水曜日①	水曜日②	木曜日	金曜日
研修内容	ウェブサイト制作	Office 基礎	帳簿・会計書類作成	テレセールス・ ビジネスコミュニケーション	デザイン・編集技術	テレセールス・ ビジネスコミュニケーション
初回日程	11月11日	11月12日	12月4日	3月4日	11月14日	3月6日
回数	16回	16回	5回	3月4日・3月11日	16回	3月6日・3月13日
定員	15人	15人	15人	15人	15人	15人
中途参加	なし	あり	あり	あり	あり	あり
講師	上田情報ビジネス 専門学校	すきこそじょうず	町商工会 六川氏	富田香織氏	長野美術 専門学校	富田香織氏
追加申込	不可	可能	可能	2月21日(金)	可能	2月21日(金)
研修内容		Office 応用		テレセールス・ ビジネスコミュニケーション	DTP 基礎	テレセールス・ ビジネスコミュニケーション
初回日程		11月26日		3月4日	11月21日	3月6日
回数		16回		3月4日・3月11日	16回	3月6日・3月13日
定員		15人		15人	5人	15人
中途参加		あり		あり	なし	あり
講師		すきこそじょうず		富田香織氏	キッセイ コムテック	富田香織氏
追加申込		可能		2月21日(金)	11月15日(金)	2月21日(金)

ITスキルとリテラシーを身に着けた生産性の高いテレワーカーを育成  
町内企業全体へ人材が波及し、生産性の向上につながることを見込む

## 5 ワーカーとのコミュニケーション

### (1) ミーティング（6月と2月に実施）

当事業が住民と行政がともに作り上げていくものであるという基本認識を再度共有し、事務局と住民ワーカーの情報共有を図るために実施。

#### ◎2月の開催事例

- ・ 社会福祉型テレワークの目指す姿を共有
- ・ 次年度の事業内容の説明
- ・ 受託業務の予定を説明
- ・ 疑問や困っていることなどを共有

### (2) 個別ヒアリング

1月から2月にかけて、登録している住民ワーカー全体に個別ヒアリングを実施。ヒアリング結果のまとめについては、別添のとおり。

## 6 当事業の行政メリット

### (1) コミュニティの形成

住民ワーカーが集まる場としての認知が町内に生まれてきたことで、住民ワーカーは口コミで増加し、様々な地域情報（仕事・イベント・子育て情報等）が集まるようになってきた。

仕事や研修への参加を目的に集まることで、住民ワーカーのコミュニティが自然発生した。特に結婚を機に当町に移住してきた子育て世代の女性の孤立を防ぐことにつながっている可能性が高い。

### (2) 障がい者や引きこもりの社会参加

これまで行政では支援が難しかった障がい者及び引きこもりの就労に関して実績が生まれた。仕事や研修に参加することで、自分の役割や業務の目的が明確化し、給与が支払われることで自己肯定感が得られている。

町内には当事業に参加できる障がい者や引きこもりが他にも存在している可能性が高いため、どのようにアプローチを図っていくか、また、個別の支援方法について専門機関と連携していく必要がある。